

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 1月19日

【評価実施概要】

事業所番号	0197600299		
法人名	有限会社 アルファ・ヘルプ・サービス		
事業所名	グループホーム べつかり海の家		
所在地	石狩市厚田区別狩92-4 (電話) 0133-78-2222		
評価機関名	株式会社 社会教育総合研究所		
所在地	札幌市中央区南3条東2丁目1		
訪問調査日	平成21年1月14日	評価確定日	平成21年2月19日

【情報提供票より】 (21年 1月 7日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	19年	9月	1日
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人	
職員数	15 人	常勤	6人,	非常勤 9人, 常勤換算 15人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃 (平均月額)	24,000 円	その他の経費(月額)	光熱費 12,000円 暖房費 (10~4月) 5,000円
敷 金	有 (円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		900 円

(4) 利用者の概要 (1月 7日現在)

利用者人数	9 名	男性	4 名	女性	5 名
要介護 1	2 名	要介護 2	5 名		
要介護 3	2 名	要介護 4	名		
要介護 5	名	要支援 2	名		
年齢	平均 88.25 歳	最低	83 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	あつた中央クリニック、あつた歯科クリニック、幸徳会病院、石狩病院、共生会病院、はまなす医院
---------	---

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームべつかり海の家は、別荘の並ぶ高台を背に、海を見下ろす雄大な眺めの広がる地に建つ。同市内のやや離れた地区に在宅介護事業を複数営む法人を事業主体とし、当施設には居宅介護支援事業所を併設している。高齢化率が高い上、独居など生活に不安を抱える老人が多い地域の要望に応じて平成19年に開設した、新しいホームである。利用者は近隣の集落からの人が多く、地域の町内会や老人会、小学校などとも親しい関係を築いている。利用者はレクリエーションや、仲間同士、職員との会話を楽しみながら、明るく活気のある生活を送っている。経験豊富な管理者の下、厚い信頼関係で結ばれた職員のチームワークで行き届いた介護が行われている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)
	今回が初めての評価である。
①	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)
	自己評価表を全職員に配って記入を求め、管理者が取りまとめて評価を作成した。初めてでもあり、文言に難解な部分もあって理解に苦心した面もあったが、日ごろの業務の見直しと気付きの機会として職員にも役立てられた。さらに評価を活かした運営の取り組みを検討中である。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)
	開設後しばらくはあまり開かれなかったが、昨年後半より、2ヶ月に1回の開催が定着した。会議では利用者の異動状況、生活の様子、通院、事故・ヒヤリハット事例、避難訓練、行事等が議題として取り上げられ、活発な討議が行われている。地域の情報を得る重要な場ともなっている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)
	事業所の苦情・相談窓口および外部の窓口を家族に明示して、受付体勢を整え、希望や要望があった場合は連絡ノートに記載して全職員が周知し、問題によっては職員会議で対策を検討することによって、運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)
	地域の神社、町内会、特別養護老人ホーム、障害者施設などの各種のお祭りやイベントに共同で参加し、小学校の運動会を参観するなどして交流している。一部の利用者は老人会に加入して例会に参加している。町内会への加入を希望して、運営推進会議でも取り上げているが、会側の事情でいまだ実現していない。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	昨年10月、職員が話し合っ、新たな理念を作り上げた。覚えやすいように簡潔なものとした。人と人とのつながりを大切にし、健康で自立した生活を支えるとの内容で、人と人とのつながりには地域とのつながりの意も込められている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員全員が参加して作成し、短くて覚えやすいので、よく周知されている。玄関ホールや人のよく通るところに掲示している。実際日常業務にどのように活かしてゆくかを検討中である。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の神社、町内会、特別養護老人ホーム、障害者施設などの各種のお祭りやイベントに共同で参加し、小学校の運動会を参観するなどして交流している。一部の利用者は老人会に加入して例会に参加している。町内会への加入を希望しているが、会側の事情でいまだ実現していない。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価表を全職員に配って記入を求め、管理者が取りまとめて評価を作成した。初めてでもあり、文言に難解な部分もあって理解に苦心した面もあったが、日ごろの業務の見直しと気付きの機会として職員にも役立てられた。さらに評価を活かした運営の取り組みを検討中である。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年後半より、2ヶ月に1回の開催が定着した。会議では利用者の異動状況、生活の様子、通院、事故・ヒヤリハット事例、避難訓練、行事等が議題として取り上げられ、活発な討議が行われている。地域の情報を得る重要な場ともなっている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	石狩市および厚田区のケア会議に参加し、さらに2ヶ月に1回の地域会議およびケアマネ会議に参加して市の職員と連携している。石狩市職員の介護相談員を受け入れている。地域包括支援センターを頻繁に訪問して、市の職員と緊密な連携をとっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回、「海の家通信」を発行して、ホームの全体的様子と、利用者各人の生活ぶり、健康状態などを写真入で報告している。面会時には通院や生活状況など詳細に報告し、異変があった時はその都度きめ細かに報告している。	○	職員の異動についても、家族への報告事項に含めるよう、期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所の苦情・相談窓口および外部の窓口を家族に明示して、体勢を整え、希望や要望があった場合は連絡ノートに記載して全職員が周知し、問題によっては職員会議で対策を検討することによって、運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の他の事業所との間の人事異動はなく、最近離職も起きていない。新入職員に対しては、利用者は歓待して受け容れている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	特に計画はなく、研修の情報を職員に開示して、受講を奨励し、受講する際は勤務時間に配慮をしている。内部研修は最近になって、毎月実施が定例化している。	○	外部研修についても、職員の経験やレベルに応じて計画を立て、事業所の援助の下に受講できるよう、取り組みを期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は地域ケア会議などで同業者と交流の機会もあるが、一般職員については近隣に同業者がなく、現在のところ交流の実績はない。	○	多少遠隔地となるにしても、市内の同業者と、連絡や相談、相互訪問しあうなど、交流の関係を築くよう、期待したい。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始の前に本人、家族が来訪し、見学するよう求めている。入居の当初は、これまでの生活のパターンを把握し、適切な馴染みの方法を検討している。家具や食器など身の回りのものは使い慣れたものを持ち込むように促し、馴染みの雰囲気を作っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	歩行や排泄など、日常の生活動作については職員が安易に手出しをせず、出来るだけ本人の能力を活かすようにしているが、調理や掃除、畑仕事などには多くの利用者が喜んで参加している。そのような中で利用者から教わることも多い。職員が気落ちしている時などには励まされることも多い。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知症レベルの軽い利用者が多いので言葉によるコミュニケーションに困難はなく、話をよく聞いて意向を汲み取るようにしている。入浴中や通院の際の車中など、二人きりや少人数になった時にはゆっくり本音を聞きだすようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の意向、日々の個人記録、職員や医療関係者の情報を基に計画作成担当者が介護計画の原案を作成している。その後、全職員の意見を聞いて最終的な介護計画を計画作成担当者が作成して、家族に説明を行い同意を得ている。	○	介護計画は、家族への説明と共に、今後は可能な限り利用者本人にも説明が行われるよう期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎にモニタリングを行い、介護計画の見直しを行っている。体調の変化や入退院など、状況に応じて現状に即した新たな介護計画を作成している。見直しを行った介護計画は、その都度家族に説明を行い、同意を得ている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者のかかりつけ医への送迎や、人工透析の送迎、老人クラブへの送迎など、状況に応じて柔軟に支援している。有料であるが、家族が必要に応じて宿泊が出来るように、寝具や個室を準備している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医への継続受診は可能になっており、職員が送迎したり、状況により現地で家族と合流するなどの対応を行っている。常に利用者の健康状態を把握し、かかりつけ医との連携も深められている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「重度化した場合の対応に係る指針」の書面を作成し、入居時に説明を行い署名を得ている。状況により看取りも行うが、看取りに関しては、その都度、家族や医師、事業者間で話し合いを行って対応の指針を作成する事になっている。	○	重度化や看取りに関しての対応について、今後、職員間で情報の共有を踏む予定なので、その取り組みに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	トイレ誘導などは、他の利用者に聞こえないように言葉がけをしたり、「ちゃん」づけで呼ぶなど友達感覚で話しかけないように、利用者の誇りやプライバシーに配慮している。個人記録は、目に触れない場所に保管している。	○	面会受付簿の書式については、話し合いも行われているが、現在は、複数名の記入用紙になっているので、今後は、プライバシーが守れるような記入方式に改められるように期待したい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者が、老人クラブへの参加を希望している時に送迎を行ったり、好みの飲み物を一緒に買いに行くなど、利用者一人ひとりの希望に沿って支援するように配慮している。利用者の希望に直ぐに対応出来ない時は、説明をして納得して待つようになっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は、利用者の希望を取り入れながら1週間単位で職員が交代で作成している。野菜の皮むきや魚おろし、味付け、食器片付けなど、利用者に合わせて手伝って貰っている。畑で収穫した野菜も食事に取り入れるなど、食事が楽しみになるように工夫している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	日曜日以外を入浴日とし、一人週2回入浴できるように配慮している。入浴回数や入浴日について、利用者の希望に沿っていないのではないかと考えて個別に聞いてみたが、現在のままで不満がないという利用者の意向を確認している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	体操やレクリエーションのゲーム、トランプ、風船バレーなど職員がそれぞれ得意な事を考えて利用者と一緒に楽しめる様に配慮している。調理や片づけなども、利用者にとっては楽しみのひとつになっている。	○	今後は、利用者一人ひとりの生活歴に沿った趣味や力を活かした楽しみ事を取り入れていきたい意向なので、その取り組みに期待したい。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	坂が多いとともに、夏季は暑さが厳しく、秋季は風が強いなど、冬季以外の季節でも環境面で問題が多く、週1回の老人クラブへの参加や通院が主な外出になっている。天候により、夏季はベランダや庭で外気浴をおこなっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は、国道や海岸が近くにあるという事で危険回避のため施錠していたが、職員で話し合いを行い現在は施錠していない。事務所に職員が常駐する事で、利用者の動きを把握して安全面に配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災発生時避難マニュアル、職員の連絡網を作成している。昨年10月に、消防署の指導のもと1回目の避難訓練を行い、来春には、夜間を想定した2回目の避難訓練を予定している。運営推進会議で結果報告を行っている。近隣にも災害時の協力を依頼している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量はチェック表を用いて個別に記録している。食事以外の水分摂取量は1日1000ccを目標にしているが、居室で摂取した量に関しての把握は充分でなく、チェック表には記入されていない。	○	管理栄養士などによる献立の栄養チェックを、定期的に受けるよう期待したい。水分摂取量の把握と、不足時の補給に充分な対応を期待したい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には手作りの羽子板や羽根などお正月らしい装飾とともに行事の写真を飾り、季節感が感じられるように工夫している。対面式の台所からは、食事の支度の様子や匂いを感じる事ができ、家庭のような環境の中で利用者が居心地良く過ごせるように工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入口には職員手作りの表札や色違いの暖簾がかけられ、それぞれの居室が個性的になっている。居室には、使い慣れた机や筆筒、テレビや冷蔵庫など思い思いの家財道具が持ち込まれていて、利用者が居心地良く過ごせる様に工夫している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。